

第一部

南米スペイン語圏日本語教育事情

1. 南米日本語教育の全体状況.....	16
1.1) 日本との関係.....	16
1.2) 日本語教育の現状.....	21
2. 機関.....	23
3. 教師.....	25
3.1) 日本語母語教師数・比率.....	25
3.2) 国際交流基金(JF)訪日研修受講状況.....	26
3.3) 汎米研修受講状況.....	27
3.4) 公的派遣日本語教師の状況.....	28
3.5) ネットワーク状況.....	29
3.5.1) 中核機関と主要機関.....	29
3.5.2) 教師会情報.....	29
3.5.3) 4か国・地区代表者会議.....	30
3.5.4) 南米スペイン語圏日本語教育ネットワーク.....	30
4. 学習者.....	31
4.1) 教育段階別学習者数(学習者数順).....	31
4.2) その他の教育機関における学習者構成.....	32
4.3) JLPT受験状況.....	33
5. 日本語学習の目的・理由.....	36
6. 日本語教育実施状況.....	37
7. まとめ.....	40



http://d-maps.com/carte.php?num_car=66293&lang=en

1. 南米日本語教育の全体状況

1.1) 日本との関係

国	外交樹立	計画移住開始	日系企業 (本邦企業) ⁴	日本との 経済連携協定
アルゼンチン	1898年	(1963年 ⁵)	51社 (7社)	
ウルグアイ	1921年	-	22社 (0社)	
エクアドル	1918年	-	18社 (2社)	
コロンビア	1908年	1929年	80社 (11社)	交渉中
チリ	1897年	-	93社 (26社)	2007年
パラグアイ	1918年	1936年	227社 (4社)	
ベネズエラ	1928年		72社 (1社)	
ペルー	1873年	1899年	55社 (16社)	2012年
ボリビア	1914年	1954年	51社 (4社)	
ブラジル(参考)	1895年	1908年	705社 (38社)	

外務省、各国大使館ホームページ、「海外在留邦人数調査統計(平成28年要約版)」をもとに作成

- ▶ 南米各国と日本の外交関係が樹立したのは、19世紀後半から20世紀前半。
- ▶ 計画移住が行われた国は、アルゼンチン、コロンビア、パラグアイ、ペルー、ボリビア。
- ▶ 計画移住が行われなかった国は、ウルグアイ、エクアドル、チリ、ベネズエラ。
- ▶ 計画移住の開始時期が最も早かったのはペルー(1899年)。
- ▶ 日系企業が多いのは、パラグアイ(227社)、チリ(93社)、コロンビア(80社)。
- ▶ 日系企業が少ないのは、エクアドル(18社)、ウルグアイ(22社)。
- ▶ 日系企業の中でも本邦企業が多いのは、チリ(26社)、ペルー(16社)、コロンビア(11社)。
- ▶ 日系企業の中でも本邦企業が少ないのは、ウルグアイ(0社)、ベネズエラ(1社)、エクアドル(2社)。
- ▶ 日本と経済連携協定を結んでいるのは、チリとペルーの2か国で、コロンビアは2012年から経済連携協定の合意を目指し交渉を進めている。

⁴ 「日系企業」とは日本企業または日本人が出資している海外の企業。うち、現地法人化されていない企業を「本邦企業」と呼ぶ。

⁵ アルゼンチンへの邦人移住は、戦前は自由渡航者を中心に展開されてきたが、戦後は1963年に政府間で移住協定が結ばれ、同協定のもと行われるようになった。

国	人口 (万人)	日系人数 (推定)	人口当たりの 日系人の割合	在留邦人数	在日当該国 人数
アルゼンチン	4,342	65,000	0.15%	11,726	2,979
ウルグアイ	342	500	0.01%	344	134
エクアドル	1,542	300	0.002%	382	273
コロンビア	4,770	1,800	0.004%	1,336	2,572
チリ	1,776	2,600	0.01%	1,622	871
パラグアイ	685	5,800	0.08%	3,449	1,963
ベネズエラ	3,115	800	0.003%	392	422
ペルー	3,110	100,000	0.32%	3,353	47,875
ボリビア	1,006	11,350	0.11%	2,970	5,531
ブラジル(参考)	20,784	1,600,000	0.77%	54,014	177,937

外務省、各国大使館、公益財団法人海外日系人協会ホームページ、
法務省「在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表」(2016年6月末)をもとに作成

- ▶ 日系人数が多いのは、ペルー(10万人)、アルゼンチン(6.5万人)、ボリビア(11,350人)、パラグアイ(5,800人)の4か国で、計画移住が行われた国。
- ▶ 日系人数が少ないのは、エクアドル(300人)、ウルグアイ(500人)、ベネズエラ(800人)。
- ▶ 在留邦人数が多いのは、アルゼンチン(11,726人)、パラグアイ(3,449人)、ペルー(2,252人)。
- ▶ 在留邦人数が少ないのは、ウルグアイ(344人)、エクアドル(382人)、ベネズエラ(392人)。
- ▶ 在日当該国人数が多いのは、ペルー(47,875人)、ボリビア(5,531人)、アルゼンチン(2,979人)。
- ▶ 在日当該国人数が少ないのは、ウルグアイ(134人)、エクアドル(273人)、ベネズエラ(422人)。

＜参考1＞在日当該国人の推移

国	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
アルゼンチン	3,863	3,849	3,777	3,484	3,181	2,970	2,950	2,890	2,862	3,104	2,979
ウルグアイ	132	133	135	127	119	114	125	123	127	131	134
エクアドル	225	215	219	229	209	212	259	266	273	241	273
コロンビア	2,893	2,848	2,803	2,705	2,606	2,505	2,404	2,442	2,438	2,457	2,572
チリ	728	730	735	710	680	657	720	754	740	833	871
パラグアイ	2,439	2,556	2,542	2,240	2,098	1,984	1,915	1,889	1,876	1,903	1,963
ベネズエラ	309	317	330	323	313	311	378	456	404	407	422
ペルー	58,721	59,696	59,723	57,464	54,636	52,843	49,451	49,158	48,442	47,965	47,875
ボリビア	6,327	6,505	6,527	6,094	5,720	5,567	5,345	5,358	5,362	5,469	5,531
ブラジル (参考)	312,979	316,967	312,582	267,456	230,552	210,03	192,201	186,821	179,406	175,351	177,937

総務省「在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表」をもとに作成

- ▶ 南米スペイン語圏の中で在日当該国人数がもっとも多いのはペルーで約4万8千人に上る。その他の8か国は多くて5500人程度。
- ▶ ペルーの2006年と2016年の在日当該国人数を比較すると、その差は約1万人になる。

＜参考1＞ 在日当該国人の推移

「Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム⁶」

同プログラムにより、2016年3月に、南米スペイン語圏9か国からの参加者を含む計71名が訪日している。

2017年のプログラムには以下の2つがある。

- ▶ アルゼンチンへの大学院生・社会人派遣プログラム
派遣時期： 2017年1月29日～2月7日
- ▶ ペルーへの大学院生・社会人派遣プログラム
派遣時期： 2017年1月6日～1月15日

⁶ www.mofa.go.jp/mofaj/la_c/m_ca_c/page22_002530.html

＜参考3＞文部科学省の中南米対象事業

平成27年度「大学の世界展開力強化事業～中南米等との大学間交流形成支援～」⁷

	テーマ	日本の大学	国名	中南米の大学
1	山形・アンデス諸国 ダブル・トライアン グル・プログラム	山形大学 山形県立米沢栄養大学 鶴岡工業高等専門学校	ペルー	ペルー・カトリカ大学
			ペルー	国立工科大学
			ペルー	国立サンマルコス大学
			ペルー	ラ・モリーナ国立農業大学
			ボリビア	サンアンドレス・ボリビア国立大学
			チリ	国立タルカ大学
2	持続的な社会の安 全・安定に貢献す るトランスパシフィ ック協働人材育成 プログラム	筑波大学	ブラジル	サンパウロ大学
			チリ	チリ大学
			ペルー	カトリカ大学
			メキシコ	メキシコ大学院大学
			コロンビア	ロスアンデス大学
3	ポスト・アーバン・ リビング・ イノベーション・ プログラム	千葉大学	メキシコ	メキシコ国立自治大学
			メキシコ	アグアスカリエンテス国立自治大学
			メキシコ	ベラクルス大学
			メキシコ	モンテレイ大学
			メキシコ	パンアメリカン大学
			パナマ	パナマ大学
4	チリ・ブラジルとの 連携による理工フ ロンティア人材の 育成	東京大学	チリ	チリ大学
			チリ	チリ・カトリカ大学
			ブラジル	サンパウロ大学
			ブラジル	リオ・デ・ジャネイロ連邦大学

⁷ www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/

	テーマ	日本の大学	国名	中南米の大学
5	日本と中南米が取り組む地球的課題を解決する文理協働型人材の養成	東京外国語大学 東京農工大学 電気通信大学	ブラジル	カンピナス州立大学
			ブラジル	パウリスタ総合大学
			ブラジル	リオ・デ・ジャネイロ州立大学
			ブラジル	パラナー連邦大学
			メキシコ	チャピngo自治大学
			メキシコ	グアナファト大学
			メキシコ	メキシコ国立自治大学
			メキシコ	国立工科大学
			コロンビア	エアフィット大学
			アルゼンチン	国立ラプラタ大学
			ペルー	ラ・モリーナ国立農業大学
6	NAFTA生産拠点メキシコとの協働による15歳に始まる技術者教育モデルの世界展開	長岡技術科学大学 鶴岡工業高等専門学校 茨城工業高等専門学校 小山工業高等専門学校 長岡工業高等専門学校	メキシコ	グアナファト大学
			メキシコ	モンテレイ大学
			メキシコ	ヌエボレオン大学
7	人の移動と共生における調和と人間の尊厳を迫る課題解決型の教育交流プログラム	上智大学 南山大学 上智大学短期大学部	ブラジル	教皇庁立サンパウロ・カトリック大学
			ブラジル	カンピナス州立大学
			ブラジル	ブラジリア大学
			メキシコ	グアナファト大学
			メキシコ	自治工科大学
			メキシコ	イペロアメリカーナ大学
			メキシコ	メキシコ西部工科大学
			ペルー	教皇庁立ペルーカトリック大学
			チリ	教皇庁立チリカトリック大学
			コロンビア	教皇庁立ハベリアーナ大学
			コロンビア	ロスアンデス大学
			アルゼンチン	コルドバカトリック大学
			アルゼンチン	エルサルバドル大学

1.2) 日本語教育の現状

国(順位/137)	機関	教師	学習者	教師1人あたりの学習者数	人口/学習者数 ⁸	人口(万)	面積(km ²)
アルゼンチン(33)	42	192	3,571	18.6	11,605	4,144	278万
ウルグアイ(85)	3	7	244	34.9	14,016	342	17.6万
エクアドル(113)	4	6	77	12.8	200,260	1,542	25.6万
コロンビア(46)	19	73	1,502	20.6	31,758	4,770	113.9万
チリ(55)	8	47	1,078	22.9	16,475	1,776	75.6万
パラグアイ(31)	16	91	3,725	40.9	1,839	685	40.6万
ベネズエラ(70)	12	35	399	11.4	77,945	3,110	91.2万
ペルー(29)	19	92	4,074	44.3	7,339	2,990	129万
ボリビア(67)	6	36	489	13.6	20,573	1,006	110万
<参考>ブラジル(13)	352	1,140	22,993	20.2	12,108	2億7840	851.2万

外務省ホームページ、JF2015機関調査をもとに作成

- ▶ 日本語教育規模が大きいのは、ペルー、パラグアイ、アルゼンチン。
- ▶ 日本語教育規模が小さいのは、エクアドル、ウルグアイ、ベネズエラ。
- ▶ 教師1人あたりの学習者数が多いのは、ペルー(44.3人)、パラグアイ(40.9人)、ウルグアイ(34.9人)。
- ▶ 教師1人あたりの学習者数が少ないのは、ベネズエラ(11.4人)、エクアドル(12.8人)、ボリビア(13.6人)。
- ▶ 人口の割合に対して日本語学習者数が多いのはパラグアイ(約1,800人に1人)。
- ▶ 人口の割合に対して日本語学習者数が少ないのはエクアドル(約20万人に1人)。

⁸ 人口何人に対して1人の学習者がいるかを示す。

<参考4> 2015年機関調査の学習者数上位3カ国および北米・中米・カリブ地域の国のデータ

国	機関	教師	学習者	順位/136	人口/ 学習者数	人口 (万)	面積 (km ²)
中国	2,862	14,855	556,237	1	2,474	13.76億	960万
インドネシア	2,115	18,312	953,283	2	267	2.55億	189万
韓国	2,496	4,540	745,125	3	69	5,150万	10万
米国	1,462	3,894	170,998	7	2,266	3億875	962.8万
カナダ	178	727	19,601	17	1,845	3,616	998.5万
メキシコ	68	322	9,240	23	13,746	1億2,701	196万
ホンジュラス	5	17	617	61	7,715	476	5.11万
コスタリカ	8	26	522	64	15,326	800	11.24万
グアテマラ	4	8	271	83	10,041	272.1	1万
エルサルバドル	4	17	269	84	22,714	611	2.1万
キューバ	3	12	243	86	42,840	1,041	4.8万
ジャマイカ	3	6	127	104	128,661	1,634	10.9万
ニカラグア	2	4	109	107	103,303	1,126	11万
パナマ	3	4	107	108	36,729	393	7.6万
トリニダード・トバゴ	1	2	82	112	75,244	617	13万
ドミニカ共和国	1	6	50	119	27,080	135.4	5,130

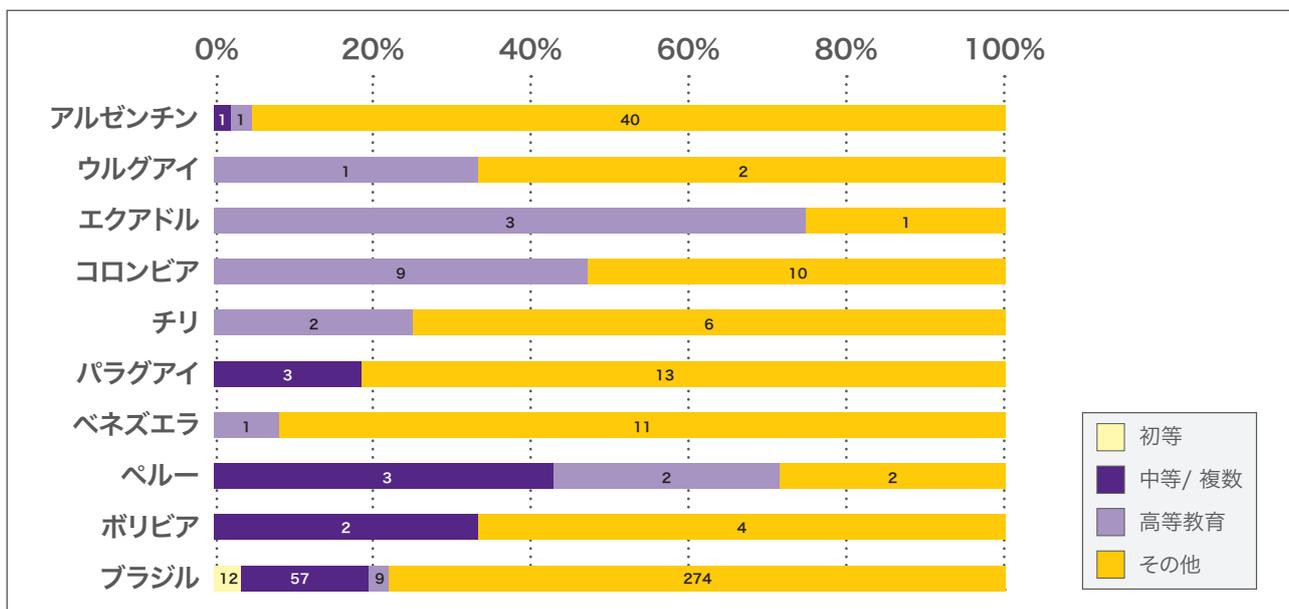
外務省ホームページ、2015年度JF機関調査をもとに作成

2. 機関

教育段階別機関数

国	初等教育		中等/複数教育 ⁹		高等教育		その他の教育機関 ¹⁰	
アルゼンチン			1	2%	1	2%	40	95%
ウルグアイ					1	33%	2	67%
エクアドル					3	75%	1	25%
コロンビア					9	47%	10	53%
チリ					2	25%	6	75%
パラグアイ			3 ¹¹	19%			13	81%
ベネズエラ					1	8%	11	92%
ペルー			3	43%	2	29%	2	29%
ボリビア			2	33%		0%	4	67%
ブラジル(参考)	12	3%	57	16%	9	3%	274	78%

2015年度JF機関調査(誤って記入されていると思われるものを訂



- 全体的にその他の教育機関が多い。
- 中等/複数段階教育の機関があるのは、アルゼンチン、パラグアイ、ペルー、ボリビアの4か国。
- 高等教育機関があるのは、ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、チリ、ベネズエラの5か国。
- 高等教育機関の割合が多いのは、エクアドル(75%)、コロンビア(47%)。
- その他の教育機関の割合が多いのは、アルゼンチン(95%)、ベネズエラ(92%)、パラグアイ(81%)。

⁹ 「序4-1教育段階」を参照。

¹⁰ 「序4-1教育段階」を参照。

¹¹ 初等教育から高等教育までのすべての段階において日本語教育を行っている機関が1機関含まれている。

<参考> 南米スペイン語圏で日本語教育を行っている初中等教育機関

国	数	機関
アルゼンチン	1	日亜学院
パラグアイ	4	ニホンガッコウ、日本パラグアイ学院、サクラ日本語教育学院、三育学院
ペルー	5	ラ・ウニオン校、ラ・ビクトリア校、ノグチヒデオ校、ホセ・ガルベス校、日秘ニッケイ学校(初等のみ)
ボリビア	2	サンフアン学園、オキナワ第一日ボ学校

2015年度JF機関調査、聞き取り調査をもとに作成

- ▶ アルゼンチン、ペルー、ボリビアの学校は日系子弟に対する日本語教育が始まり。
- ▶ パラグアイの4校は、親日家のパラグアイ人や各種日系団体・日系有識者が主体となって設立され、パラグアイと日本式の教育を掛け合わせた教育を行っている。
- ▶ FJSPでは、上記のような公教育機関の学習者を各国から1名サンパウロに招聘し、以下の研修を実施している。

【南米中等教育生徒サンパウロ研修の概要】

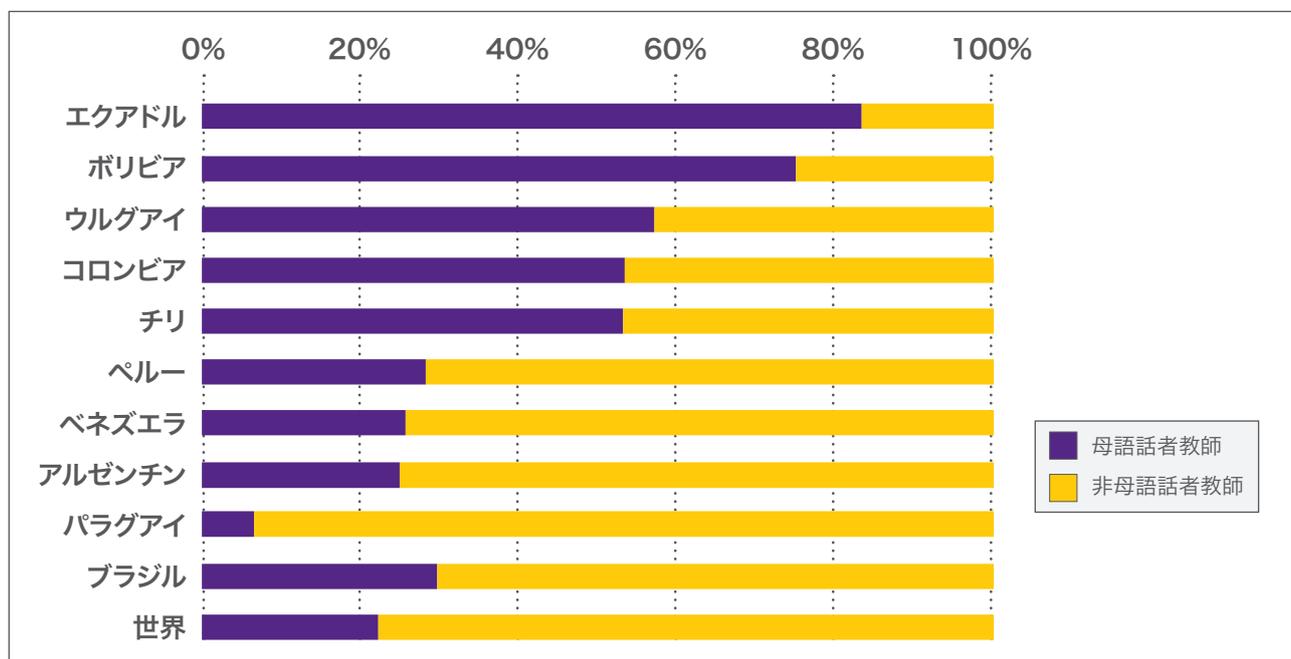
目的	公教育機関において日本語を長く勉強してきた学習者に、日本語を使い日本文化に触れる機会を与えることで、学習意欲を高め、新たな学習の動機付けをはかる。
応募資格	① 研修時に公教育機関で2年以上日本語を学習している生徒。 ② 研修開始日に13歳以上18歳以下の者(1999年7月～2004年7月生まれ)。 ③ 日本語能力試験N5以上の合格者或いは別途の「日本語能力証明書」ですべての項に達している者。 ④ 研修開始日現在で過去5年以内に日本に継続して7日間を超えて滞在したことがない者。 ⑤ 当研修へ参加する許可を保護者から得ている者。
期間	4日間 2017年07月5日～8日(2017年度)
定員	15名程度
研修内容	① さまざまな中等教育機関から集まった学習者たちとの交流。 ② 日本語を使ったゲームなどの活動。 ③ 日本文化の体験。 ④ 日本祭り(Festival do Japão)見学。
備考	1999年 ブラジルの公立校の生徒を対象にサンパウロ旅行として開始。 2010年 参加枠を広げ、私立校の生徒も対象に。 2012年 南米スペイン語圏4か国からも招聘開始。

参考:「2017年度南米中等教育生徒サンパウロ研修実施要領」

3. 教師

3.1) 日本語母語教師数・比率

	教師	日本語母語教師		機関	日本語母語教師 在籍機関	
		(人)	(%)		(機関)	(%)
アルゼンチン	192	48	25.0	42	26	61.9
ウルグアイ	7	4	57.1	3	3	100.0
エクアドル	6	5	83.3	4	4	100.0
コロンビア	73	39	53.4	19	16	84.2
チリ	47	25	53.2	8	7	87.5
パラグアイ ¹²	91	6	6.6	16	2	12.5
ベネズエラ	35	9	25.7	12	7	58.3
ペルー	92	26	28.3	19	11	57.9
ボリビア	36	27	75.0	6	6	100.0
ブラジル(参考)	1,140	339	29.7	352	202	57.4
世界(参考)	64,108	14,301	22.3	16,179	6,273	38.8



2015年度JF機関調査をもとに作成

- ▶ 世界全体では母語話者教師の割合は全体の約22%。
- ▶ 母語話者教師の割合が高いのは、エクアドル(83.3%)、ボリビア(75%)、ウルグアイ(57.1%)。
- ▶ 母語話者教師の割合が低いのは、パラグアイ(6.6%)、アルゼンチン(25%)、ベネズエラ(25.7%)。

¹² 2015年度JF機関調査の結果をもとに作成したが、「パラグアイ」の数値に関しては、2016年に行った現地視察時の状況を考えると、本データが現地の状況を正確に反映しているとは言えない。

3.2) 国際交流基金(JF)訪日研修受講状況

国(教師数 ¹³)	長期	短期	上級	修士	日系人 ¹⁴	在外邦人 ¹⁵	合計
アルゼンチン (192)	7	9	1	0	1	10	28
ウルグアイ (7)	1	0	0	0	0	0	1
エクアドル (6)	1	0	0	0	0	0	1
コロンビア (73)	14	12	2	0	0	2	30
チリ (47)	9	5	0	0	0	8	22
パラグアイ (91)	6	2	0	1	0	9	18
ベネズエラ (35)	1	7	0	0	2	9	19
ペルー (92)	10	15	2	1	6	7	41
ボリビア (36)	1	6	0	0	1	5	13

JF資料(1989~2016年)をもとに作成

- ▶ JF研修受講者数が多いのは、ペルー(41人)、コロンビア(30人)、アルゼンチン(28人)。
- ▶ JF研修受講者数が少ないのは、ウルグアイ(1人)とエクアドル(1人)。
- ▶ 上級研修受講者がいるのは、アルゼンチン(1人)、コロンビア(2人)、ペルー(2人)。
- ▶ 修士プログラム修了者がいるのは、ペルー(1人)とパラグアイ(1人)。

【 JF訪日研修の概要 】

研修	対象者条件			
	国籍等	年齢	日本語教授歴	日本語運用力
長期研修	日本と国交のある国の国籍	満36歳未満	6か月以上 5年未満	JLPT N4または旧試験3級以上
短期研修	日本と国交のある国の国籍	満56歳未満	2年以上	JLPT N4または旧試験3級以上
上級研修	日本と国交のある国の国籍 日本国籍	満56歳未満	5年以上	JLPT N1または旧試験1級以上
修士プログラム	日本と国交のある国の国籍	満45歳未満	2年以上	JLPT N1または旧試験1級以上
日系人研修	日本と国交のある国の国籍 日本国籍	満56歳未満	1年以上	JLPT N3または旧試験2級若しくは3級以上

平成28年度公募プログラムガイドラインをもとに作成

詳しくは、JF公募プログラム「海外日本語教師研修」を参照。

<https://www.jpf.go.jp/j/program/japanese.html>

¹³ 2015年度JF機関調査より。

¹⁴ 2012年度から開始。

¹⁵ 現在は行われていない。

3.3) 汎米研修受講状況

ブラジルで主に日系の日本語教育機関、教師、学習者支援を行っているCBLJが実施している「汎米日本語教師合同研修会」の受講状況は以下の通り。

国	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'15	'16	'17	合計
アルゼンチン	3	2	3	2	1	2	5	2	2	0	1	1	1	25
コロンビア	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	6
チリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
パラグアイ	1	2	2	3	2	3	1	1	1	1	0	4	3	24
ベネズエラ	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6
ペルー	2	2	1	2	2	3	1	4	2	3	3	2	3	30
ボリビア	2	1	2	1	2	1	1	1	0	2	1	0	1	15

CBLJ資料をもとに作成

- ▶ 受講者数が多いのは、ペルー（30人）、アルゼンチン（25人）、パラグアイ（24人）。
- ▶ ウルグアイとエクアドルからは受講者なし。

【 汎米研修の概要 】

目的	新人教師の教授力向上
対象	日系人または日本人。 1年以上の教授経験。 メキシコ・ドミニカ以南の中南米（主に、パラグアイ、ペルー、ボリビア、アルゼンチ）
応募条件	18歳～60歳まで JICA/JF主催の訪日研修に未参加の人 日本語能力試験N3以上 心身ともに健康な人 研修後日本語教師を続ける意志のある人
期間	13日間 2017年1月16日～28日(2016年度)
定員	15名
費用	受講料なし。交通費、宿泊費、日当支給あり。
実施機関	ブラジル日本語センター(Centro Brasileiro de Língua Japonesa)
後援	(独)国際協力機構サンパウロ出張所

CBLJホームページ等をもとに作成

3.4) 公的派遣日本語教師の状況

JICA日本語教育ボランティア派遣状況(2017年4月現在)

国	人数	ボランティア	配属先
アルゼンチン	4人	日系社会青年ボランティア 日系社会シニアボランティア 日系社会青年ボランティア 日系社会シニアボランティア(短期)	在亜日本語教育連合会 在亜日本語教育連合会 ブルサコ日本語学園 ポサーダス日本人会
ウルグアイ	2人	シニア海外ボランティア シニア海外ボランティア	ウルグアイ共和国大学 在ウルグアイ日本人会
エクアドル		なし	
コロンビア		なし	
チリ	4人	シニア海外ボランティア シニア海外ボランティア シニア海外ボランティア シニア海外ボランティア	国立サンティアゴ大学 国立ラ・セレナ大学 私立アウストラル大学 チリ中央日本人会
パラグアイ	5人	日系社会シニアボランティア シニア海外ボランティア 日系社会青年ボランティア 日系社会青年ボランティア 青年海外協力隊	パラグアイ日本人会連合会 ニホンガッコウ大学 ラ・コルメナパラグアイ日本文化協会 イグアス日本人会 日本パラグアイ学院
ペルー	2人	シニア海外ボランティア 青年海外協力隊	ペルー日系人協会日本語普及部 ペルー日系人協会クスコ
ベネズエラ		なし	
ボリビア	3人	日系社会青年ボランティア 青年海外協力隊(現職、小学校) 日系社会青年ボランティア	サンフアン学園 ヌエバ・エスペランサ日本語学校 ボリビア日系協会連合会

JICAナレッジサイト「国別派遣概況【中南米】※外部公開用※」、南米実態調査をもとに作成

※JFからの専門家派遣なし(2017年4月現在)

3.5) ネットワーク状況

3.5.1) 中核機関と主要機関

本報告書での「中核機関」と「主要機関」の定義については、「序章4-3」を参照のこと。

国	中核機関	主要機関
アルゼンチン	在亜日本語教育連合会	ラプラタ大学 私立ブエノスアイレス日亜学院
ウルグアイ	在ウルグアイ日本人会	共和国大学
エクアドル		エクアドルJLPT教師会
コロンビア	コロンビア日系人協会日本語センター 私立ロスアンデス大学	コロンビア全国日本語教師会・日本語教育研究会 Fundación colombo Japonesa
チリ		サンティアゴ大学 日智文化協会 チリ中央日本人会 CEIJA
パラグアイ	パラグアイ日本人会連合会全パラグアイ 日系人教育推進委員会	ニホンガッコウ 日本パラグアイ学院
ペルー	ペルー日系人協会	ラ・ウニオン校
ベネズエラ		ベネズエラ日本語教師会 シモン・ボリバル大学
ボリビア	ボリビア日系協会連合会	

※各機関の概要については、各国の章を参照のこと。

3.5.2) 教師会情報

国	教師会	参照先
アルゼンチン	アルゼンチン日本語教育研究会	第2章3-3
ウルグアイ		
エクアドル	エクアドルJLPT日本語教師会	第4章3-3
コロンビア	コロンビア全国日本語教師会・日本語教育研究会	第5章3-3
チリ	(チリ日本語教師会)活動停止中	
パラグアイ	日本語教師の会	第7章3-3
ベネズエラ	ベネズエラ日本語教師会	第8章3-3
ペルー	ペルー日本語教師会	第9章3-3
ボリビア	ボリビア日本語教育研究委員会	第103-3

3.5.3) 4か国・地区代表者会議

CBLJ主催で行われている全伯日本語教師研修会と併せて行われる会議。南米スペイン語圏からの参加国は、アルゼンチン、パラグアイ、ペルー、ボリビア。情報共有、意見交換を行う。

3.5.4) 南米スペイン語圏日本語教育ネットワーク

2015年に第1回南米スペイン語圏日本語教育連絡会議がペルー日系人協会(以下、APJ)主導のもと、南米スペイン語圏各国から1名の日本語教育関係者がリマに招へいされ実施された。

▶ 第1回南米スペイン語圏日本語教育連絡会議(2015年)

目的: 南米各国のネットワーク構築と継続的な交流の確立、および各地や各機関における日本語教育の状況や最近の取り組み、問題を共有する。

参加: アルゼンチン、エクアドル、コロンビア、チリ、パラグアイ、ペルー(主催国)、ベネズエラ、ボリビア(8か国)

▶ 第2回南米スペイン語圏日本語教育連絡会議(2016年)

目的: 南米ネットワークの活用及びネットワークの維持・発展について考える。各地や各機関における日本語教育の状況及び問題点の共有し、ネットワークを利用した問題点の解決を模索する。

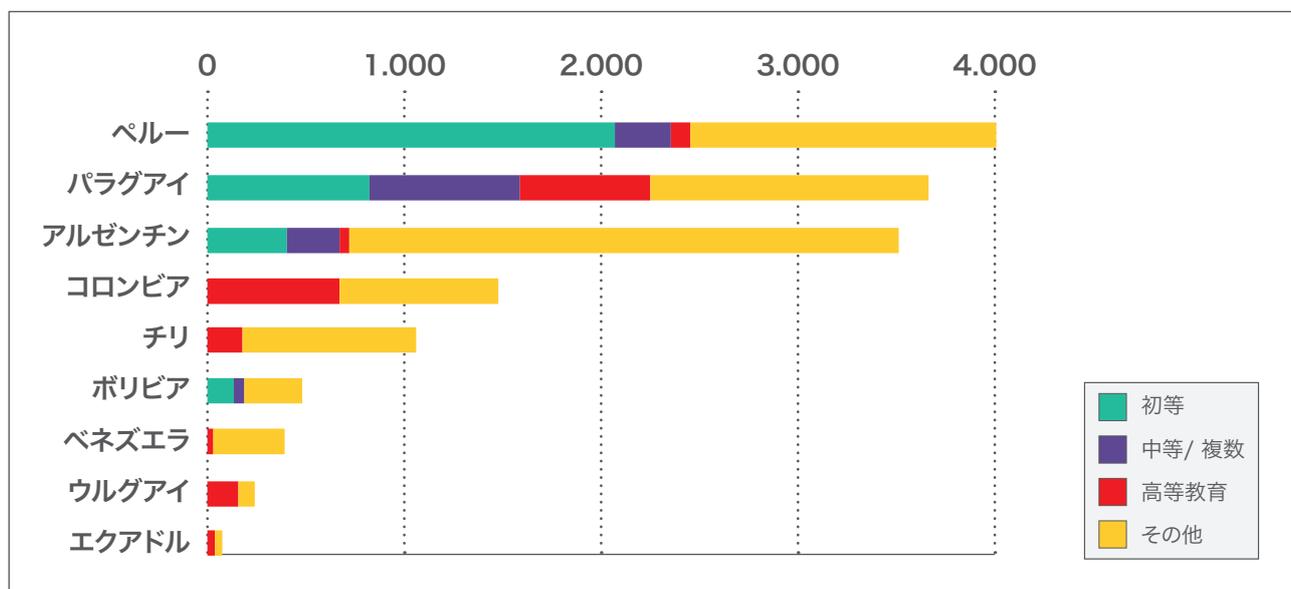
参加: アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、チリ、パラグアイ、ペルー(主催国)、ベネズエラ、ボリビア(9か国)

4. 学習者

4.1) 教育段階別学習者数(学習者数順)

国	初等教育	中等/複数教育	高等教育	その他の教育機関	合計
ペルー	2,104	290	100	1,580	4,074
パラグアイ	837	778	673	1,437	3,725
アルゼンチン	411	272	50	2,838	3,571
コロンビア	0	0	682	820	1,502
チリ	0	0	181	897	1,078
ボリビア	137	54	0	298	489
ベネズエラ	0	0	30	369	399
ウルグアイ	0	0	159	85	244
エクアドル	0	0	37	40	77
合計	3,489	1,394	1,912	8,364	15,159

2015年度JF機関調査(誤って記入されていると思われるものを訂正し作成)



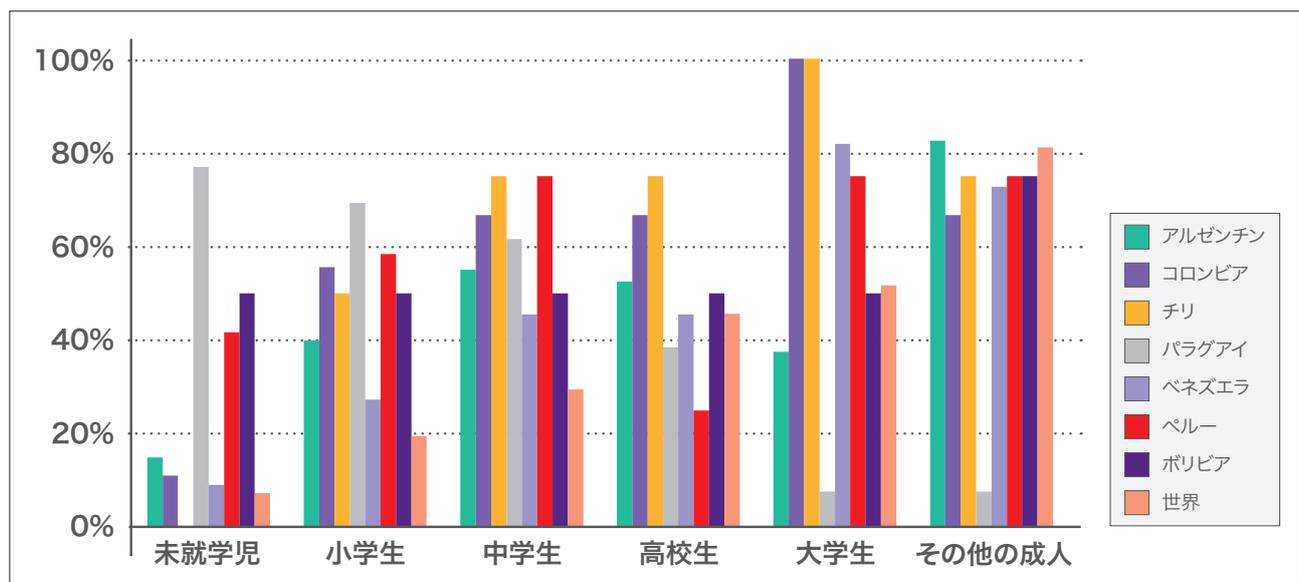
2015年度JF機関調査(誤って記入されていると思われるものを訂正し作成)

- ▶ 南米スペイン語圏の日本語学習者の総数は15,159人。
(参考: ブラジル22,993人、メキシコ11,637人、中米¹⁶2,397人)
- ▶ その他の教育機関で学ぶ学習者が最も多く、8,364人で、全体の約55%。
- ▶ 初等教育、中等/複数段階教育機関で学ぶ学習者は5,270人で、全体の約32%。
- ▶ 高等教育機関で学ぶ学習者は1,912人で、全体の約13%。

¹⁶ エルサルバドル、キューバ、グアテマラ、コスタリカ、ジャマイカ、ドミニカ共和国、トリニダード・トバゴ、ニカラグア、パナマ、ホンジュラス(10か国)

4.2) その他の教育機関における学習者の教育段階別在籍状況(機関数)¹⁷

国 ¹⁸	機関数	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学生	その他の成人
アルゼンチン	40	6	16	22	21	15	33
		15%	40%	55%	53%	38%	83%
コロンビア	9	1	5	6	6	9	6
		11%	56%	67%	67%	100%	67%
チリ	4	0	2	3	3	4	3
		0%	50%	75%	75%	100%	75%
パラグアイ	13	10	9	8	5	1	1
		77%	69%	62%	38%	8%	8%
ベネズエラ	11	1	3	5	5	9	8
		9%	27%	45%	45%	82%	73%
ペルー	12	5	7	9	3	9	9
		42%	58%	75%	25%	75%	75%
ボリビア	4	2	2	2	2	2	3
		50%	50%	50%	50%	50%	75%
世界	3,424	252	670	1,010	1,562	1,769	2,776
		7%	20%	29%	46%	52%	81%



2015年度JF機関調査をもとに作成¹⁹

- ▶ 「未就学児」の学習者が在籍している機関の割合は世界全体では7%であるが、パラグアイ(77%)、ボリビア(50%)、ペルー(74%)の割合は高い。
- ▶ 「小学生」「中学生」の学習者が在籍している機関の割合が、世界全体と比べて南米は全体的に高い。
- ▶ 「高校生」の学習者が在籍している機関の割合が、世界全体と比べてペルー(25%)とパラグアイ(38%)は低い。
- ▶ 「大学生」の学習者が在籍している機関の割合が、世界全体と比べてパラグアイ(8%)とアルゼンチン(38%)は低い。コロンビアとチリは、すべてのその他の教育機関に「大学生」が在籍している。
- ▶ 「その他の成人」の学習者が在籍している機関の割合が低いのは、パラグアイ(8%)。

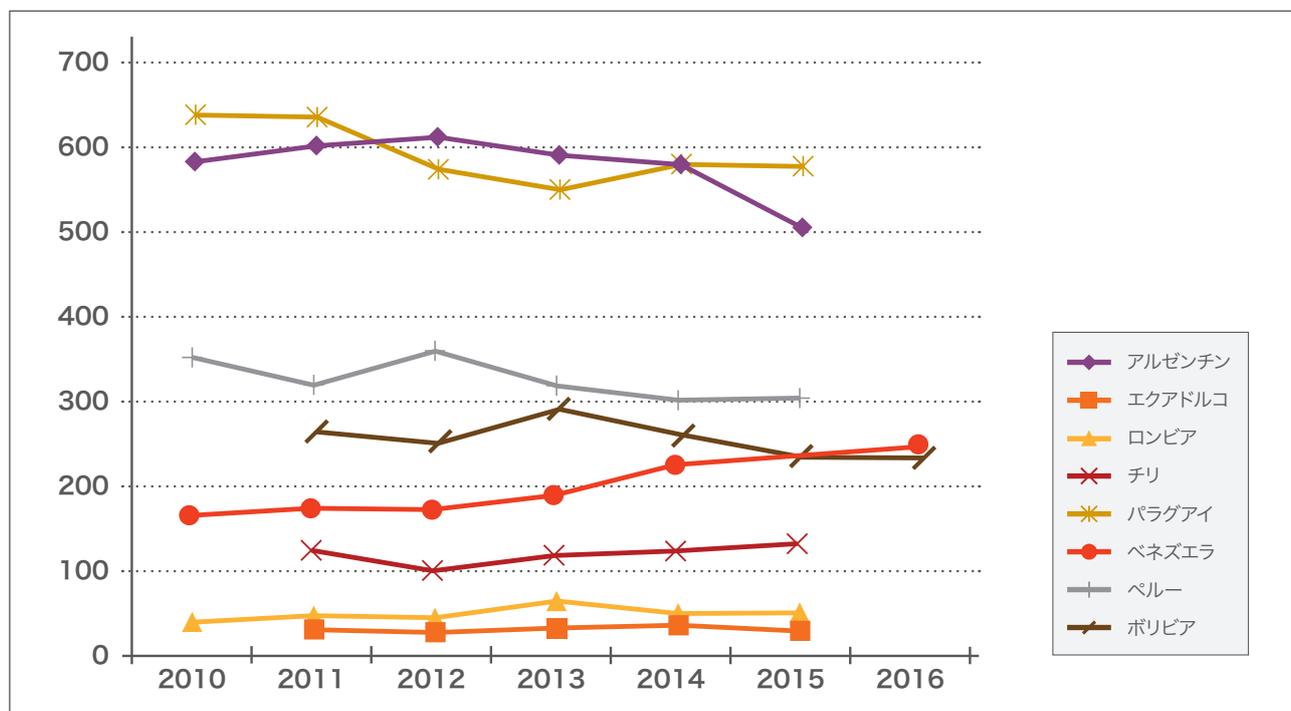
¹⁷ 該当する教育段階の学習者が在籍する機関数と機関全体との割合を表したもの。複数の教育段階の学習者が在籍している場合もある。

¹⁸ ウルグアイとエクアドルはその他の教育機関が1機関であるため、割愛した。2国ともにすべての教育段階の学習者が在籍している。

¹⁹ 「短大生/専門学校生」「大学院生」に特記すべきデータが見られないため割愛した。

4.3) 日本語能力試験(JLPT)受験状況

国	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年 ²⁰
アルゼンチン	581	603	615	590	577	502	(88)
エクアドル	-	45	41	47	51	43	
コロンビア	53	62	59	82	65	66	
チリ	-	121	93	114	120	130	(56)
パラグアイ	649	646	574	546	581	578	
ベネズエラ	160	170	168	188	230	実施なし	258
ペルー	358	320	367	319	299	302	
ボリビア	-	268	252	299	264	233	232



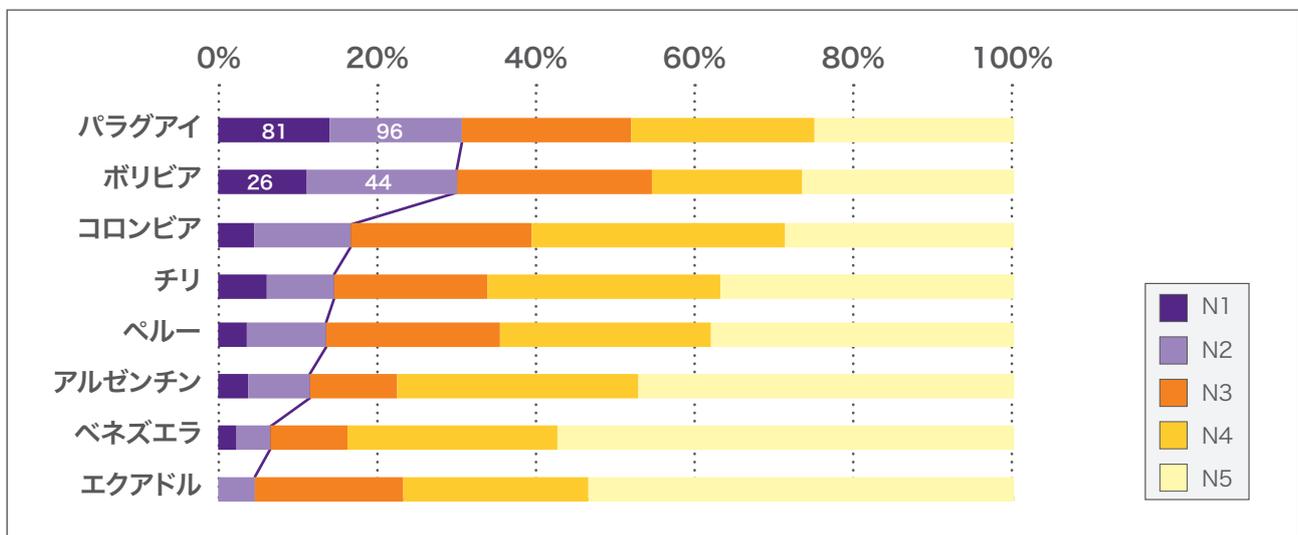
日本語能力試験(JLPT)ホームページ「過去の試験データ(2010年~2016年)」をもとに作成

- ▶ 年2回実施されているのは、アルゼンチンとチリ。7月のみの実施はベネズエラとボリビア。ウルグアイでは2016年現在実施されていない。
- ▶ 受験者数が多いのは、パラグアイとアルゼンチン。
- ▶ 受験者数が少ないのは、エクアドルとコロンビア。
- ▶ 受験者数が増加傾向にあるのは、チリとベネズエラ。
- ▶ 受験者数が減少傾向にあるのは、アルゼンチン、コロンビア、エクアドル。

²⁰ 7月実施。12月実施がある国の数値は括弧を付けて示している。

<参考1> 2015年JLPTレベル別受験者数²¹

国	N1	N2	N3	N4	N5	合計
アルゼンチン	19 4%	39 8%	55 11%	152 30%	237 47%	502
エクアドル	0 0%	2 5%	8 19%	10 23%	23 53%	43
コロンビア	3 5%	8 12%	15 23%	21 32%	19 29%	66
チリ	8 6%	11 8%	25 19%	38 29%	48 37%	130
パラグアイ	81 14%	96 17%	123 21%	133 23%	145 25%	578
ベネズエラ	6 2%	11 4%	25 10%	68 26%	148 57%	258
ペルー	11 4%	30 10%	66 22%	80 26%	115 38%	302
ボリビア	26 11%	44 19%	57 24%	44 19%	62 27%	233



日本語能力試験(JLPT)ホームページ「過去の試験データ」をもとに作成(グラフは上位級(N1、N2)の受験者数が多い順)

- N1とN2の受験者数が多いのは、パラグアイ(N1: 14%、N2: 17%)とボリビア(N1: 11%、N2: 19%)。
- 受験者の約半数がN5を受験しているのは、アルゼンチン(47%)、ベネズエラ(57%)、エクアドル(53%)。

²¹ ベネズエラは2015年にJLPTが実施されなかったため、2014年の受験者数のデータを使用。

<参考2> 学習者数あたりの受験者の割合(2015年²²⁾)

国	学習者数	受験者数	割合	備考
アルゼンチン	3,571	502	14%	年2回
エクアドル	77	43	56%	12月
コロンビア	1,502	66	4%	12月
チリ	1078	130	12%	年2回
パラグアイ	3,725	578	16%	12月
ベネズエラ	399	230	58%	7月
ペルー	4,074	302	7%	12月
ボリビア	489	233	48%	7月

日本語能力試験(JLPT)ホームページ「過去の試験データをもとに作成

- ▶ 学習者数に対する受験者数の割合が高いのは、ベネズエラ(約58%)、エクアドル(56%)、ボリビア(48%)。
- ▶ 学習者数に対する受験者数の割合が低いのは、コロンビア(4%)とペルー(7%)。

²² ベネズエラは2015年にJLPTが実施されなかったため、2014年の受験者数のデータを使用。

5. 日本語学習の目的・理由

100%または0%を示している項目は太字、また全体的に割合の高い項目は濃い黄色の背景、国によってばらつきがある項目は薄い黄色の背景にしている。また、ウルグアイ(3機関)、エクアドル(4機関)、パラグアイ(4機関²³)は回答機関数が少ないため、国全体の傾向というよりも、各機関の状況を表していると言えます。

項目	アルゼンチン	ウルグアイ	エクアドル	コロンビア	チリ	パラグアイ	ベネズエラ	ペルー	ボリビア	世界
(機関数)	42	3	4	19	8	4	12	19	6	16,179
① 歴史・文学等への関心	43%	100%	75%	79%	100%	75%	100%	74%	50%	46%
② マンガ・アニメ・J-POP等が好きだから	83%	100%	100%	95%	100%	100%	92%	89%	67%	64%
③ 政治、経済、社会への関心	14%	100%	0%	37%	25%	0%	42%	5%	17%	17%
④ 科学技術への関心	31%	67%	75%	84%	25%	25%	75%	42%	17%	26%
⑤ 日本語そのものへの興味	52%	100%	75%	95%	100%	75%	92%	89%	50%	52%
⑥ 日本語を使っでの受験や資格取得	40%	100%	25%	47%	50%	75%	75%	37%	17%	23%
⑦ 日本への留学	74%	100%	100%	95%	100%	25%	100%	68%	50%	43%
⑧ 今の仕事で必要	43%	67%	50%	47%	38%	25%	75%	47%	50%	39%
⑨ 今の仕事で必要、役立てたい	12%	0%	0%	26%	38%	25%	33%	21%	17%	15%
⑩ 日本への観光旅行	81%	100%	75%	89%	88%	0%	92%	47%	17%	33%
⑪ 日本との国際親善活動	7%	33%	0%	26%	25%	0%	67%	26%	17%	14%
⑫ 日本語での情報収集・コミュニケーション	62%	33%	50%	26%	25%	50%	67%	32%	33%	14%
⑬ 仕事や学校、地域で日本語で話したい	14%	0%	0%	42%	38%	50%	25%	16%	17%	21%
⑭ 国際理解・異文化理解	14%	33%	75%	58%	50%	0%	50%	16%	50%	23%
⑮ 母語または継承語	67%	33%	50%	42%	38%	75%	67%	53%	100%	13%
⑯ 家族、親族等の勧め	38%	67%	25%	26%	0%	25%	58%	16%	50%	16%
⑰ その他	14%	33%	0%	11%	0%	0%	8%	11%	0%	9%
⑱ 無回答	0%	0%	0%	0%	0%	75%	0%	0%	0%	20%

2015年度JF機関調査をもとに作成

- ▶ 全体的に割合の高い項目は、「①歴史・文学等への関心」「②マンガ・アニメ・J-POP等が好きだから」「⑤日本語そのものへの興味」。
- ▶ 国によってばらつきがある項目は次の3つ。
 - ◆ 「③政治、経済、社会への関心」の割合が高いのは、ウルグアイ(100%)。その他の国は比較的低い値を示している。
 - ◆ 「⑥日本語を使っでの受験や資格取得」の割合が高いのは、ウルグアイ(100%)、パラグアイ(75%)、ベネズエラ(75%)。低いのはエクアドル(25%)、ボリビア(17%)。
 - ◆ 「⑦日本への留学」の割合は多くの国で高いが、パラグアイ(25%)は割合が低い。
 - ◆ 「⑩日本への観光旅行」の割合は多くの国で高いが、パラグアイ(0%)とボリビア(17%)の割合は低い。
- ▶ 「⑮母語または継承語」は、世界平均と比べ、比較的割合の高い国が多い。特に高いのは、ボリビア(100%)とパラグアイ(75%)。

²³ 無回答12機関

6. 日本語教育実施状況

100%を示しているものは太字に、また各項目の中でもっとも割合の高いものには背景色を付けた。

項目	スケール	アルゼンチン	ウルグアイ	エクアドル	コロンビア	チリ	パラグアイ	ベネズエラ	ペルー	ボリビア	世界
(機関数)		42	3	4	19	8	4	19	12	6	16,179
A 学習者数に対する教師の数	多い	2%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%
	ちょうどよい	67%	0%	50%	47%	75%	50%	83%	47%	33%	54%
	少ない	31%	100%	25%	37%	25%	50%	17%	53%	67%	20%
	わからない	0%	0%	0%	16%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
	無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	23%
「ちょうどよい」と回答している国が多い。「少ない」と答えているのは、ウルグアイ(100%)、ペルー(53%)、ボリビア(67%)。											
B 十分な日本語運用能力を備えている教師	4分の3以上	79%	33%	75%	68%	75%	100%	58%	37%	83%	45%
	2分の1程度	19%	33%	0%	26%	25%	0%	33%	42%	17%	15%
	4分の1以下	2%	33%	0%	5%	0%	0%	8%	16%	0%	9%
	わからない	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7%
	無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	25%
「4分の3以上」がほとんどであるが、ペルーは「2分の1程度」がもっと多く42%。											
C 十分な日本語運用能力を備えている教師	4分の3以上	57%	33%	100%	58%	50%	25%	50%	26%	17%	43%
	2分の1程度	29%	33%	0%	21%	25%	25%	33%	47%	67%	16%
	4分の1以下	12%	33%	0%	16%	25%	25%	17%	21%	17%	9%
	わからない	0%	0%	0%	5%	0%	25%	0%	0%	0%	6%
	無回答	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	25%
「4分の3以上」の割合が高いのは、アルゼンチン(57%)、ウルグアイ(67%)、エクアドル(100%)、コロンビア(58%)、チリ(50%)、ベネズエラ(50%)。「2分の1程度」の割合が高いのは、ペルー(47%)とボリビア(67%)。											
D 日本語教材、教授法に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	69%	67%	50%	68%	50%	25%	67%	32%	50%	39%
	2分の1程度	21%	0%	25%	21%	38%	25%	33%	42%	50%	20%
	4分の1以下	10%	0%	0%	11%	13%	0%	0%	21%	0%	9%
	わからない	0%	33%	25%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	6%
	無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	25%
「4分の3以上」と回答している国が多いが、ペルーは「2分の1程度」がもっと多く42%。また、パラグアイでは「わからない」が50%。											

項目	スケール	アルゼンチン	ウルグアイ	エクアドル	コロンビア	チリ	パラグアイ	ベネズエラ	ペルー	ボリビア	世界
E 日本の文化・社会に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	74%	67%	75%	58%	75%	25%	75%	47%	50%	40%
	2分の1程度	17%	0%	25%	26%	13%	50%	25%	26%	50%	20%
	4分の1以下	10%	0%	0%	16%	0%	0%	0%	21%	0%	9%
	わからない	0%	33%	0%	0%	13%	25%	0%	0%	0%	6%
	無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	25%
「4分の3以上」と回答している国がほとんどであるが、パラグアイは「2分の1程度」がもっと多く50%。											
F 学習者数に対して日本語教材の数	十分である	41%	0%	25%	16%	13%	0%	33%	16%	0%	19%
	概ね揃っている	21%	33%	50%	26%	25%	50%	33%	11%	67%	36%
	不足している	38%	67%	25%	58%	63%	50%	33%	68%	33%	20%
	わからない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	1%
	無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	24%
「不足している」と回答している国は、ウルグアイ(67%)、コロンビア(58%)、チリ(63%)、ペルー(68%)。「概ね揃っている」以上の回答の割合が高いのは、アルゼンチン、エクアドル、ベネズエラ、ボリビア。											
G 現在使っている教材は学習者に合っているか	非常に合っている	24%	0%	25%	37%	25%	0%	50%	5%	17%	19%
	どちらかといえば合っている	64%	67%	50%	58%	75%	100%	42%	79%	67%	52%
	不足している	10%	33%	0%	5%	0%	0%	8%	11%	17%	4%
	わからない	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	1%
	無回答	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	24%
「どちらかといえば合っている」以上の割合がすべての国において高い。「不足している(合っていない)」との回答があるのはアルゼンチン(10%)、ウルグアイ(33%)、コロンビア(5%)、ベネズエラ(8%)、ペルー(11%)、ボリビア(17%)。											
H 現在使っている教材は教える内容・目的の面で適切か	適切である	26%	0%	25%	37%	25%	25%	42%	5%	33%	32%
	どちらとも言えない	69%	67%	50%	53%	75%	75%	50%	79%	50%	40%
	適切ではない	5%	0%	25%	11%	0%	0%	8%	11%	17%	3%
	わからない	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	2%
	無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	24%
「どちらとも言えない」がすべての国において多い。「適切ではない」との回答があるのはアルゼンチン(5%)、エクアドル(25%)、コロンビア(11%)、ベネズエラ(8%)、ペルー(11%)、ボリビア(17%)。											

項目	スケール	アルゼンチン	ウルグアイ	エクアドル	コロンビア	チリ	パラグアイ	ベネズエラ	ペルー	ボリビア	世界
I 施設(建物・教室) の状況	よい	45%	0%	50%	47%	13%	25%	50%	21%	0%	29%
	現状で支障はない	45%	33%	25%	21%	63%	75%	17%	26%	50%	32%
	やや支障がある	10%	67%	0%	32%	25%	0%	33%	53%	50%	13%
	わからない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
	無回答	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	24%
「やや支障がある」の割合が高いのは、ウルグアイ(67%)、ベネズエラ(53%)。そのほかの国は、「現状では支障はない」または「よい」の割合が高い。											
J 日本語教育設備、機器 の状況	よい	38%	0%	0%	42%	25%	0%	50%	21%	0%	23%
	現状で支障はない	43%	100%	100%	26%	38%	100%	25%	21%	33%	34%
	やや支障がある	19%	0%	0%	32%	25%	0%	25%	58%	67%	19%
	わからない	0%	0%	0%	0%	13%	0%	0%	0%	0%	1%
	無回答	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	24%
「やや支障がある」の割合が高いのは、ベネズエラ(58%)、ボリビア(67%)。そのほかの国は、「現状では支障はない」または「よい」の割合が高い。											
K 積極的に授業に取り 組む学習者	4分の3以上	86%	33%	100%	90%	75%	50%	83%	84%	50%	43%
	2分の1程度	14%	33%	0%	5%	25%	50%	8%	11%	50%	27%
	4分の1以下	0%	33%	0%	0%	0%	0%	8%	5%	0%	6%
	わからない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
	無回答	0%	0%	0%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	24%
「4分の3以上」と回答している国がほとんどであり、多くの国では70%以上を占めている。「4分の3以上」と「2分の1程度」の割合が同じ(50%)なのは、パラグアイとボリビア。「4分の1以下」との回答があるのは、ウルグアイ(33%)、ペルー(8%)、ベネズエラ(5%)。											

2015年度JF機関調査をもとに作成

7. まとめ

- ▶ 南米スペイン語圏の中で計画移住が行われたのは、アルゼンチン、コロンビア、パラグアイ、ペルー、ボリビアの5か国であるが、コロンビア以外の4か国は移民規模が大きく推定日系人数、在留邦人数、在日当該国人数も多い。また、総じて日本語教育規模も南米スペイン語圏の中では大きい。
- ▶ 推定日系人数、在留邦人数、在日当該国人数、日系企業数すべてにおいて少ないのは、ウルグアイ、エクアドル、ベネズエラの3国であり、日本語教育規模も小さい。
- ▶ 日系企業が多いのはパラグアイであるが、本邦企業が多く進出しているのは日本と経済連携協定を結んでいるチリとペルーである。
- ▶ 母語話者教師の割合が高いのはエクアドル、ウルグアイ、ボリビア。ボリビアは移住開始の時期が遅く日系社会の世代が比較的若いため母語話者教師の割合が高いと思われる。反対に、移住開始の時期の早かったペルーやアルゼンチンは母語話者教師の割合が低い。現地国籍の日系人日本語教師が多いと推測される。
- ▶ JF研修受講状況を見ると、ペルー、アルゼンチン、コロンビアでは短期、長期、上級研修とさまざまな段階で利用されており、JF研修が認知されていることがわかる。ペルーとパラグアイについては、修士プログラムの利用もある。ウルグアイとエクアドルではJF研修の利用実績が低いが、これは教師数自体が少ないこと、また研修の主な対象者となる非母語話者教師が少ないことが理由として考えられる。
- ▶ アルゼンチンやペルーのように、中核機関が国内ネットワークの主体として機能している国がある一方、各機関が各地に点在しており、機関同士の交流の少ない国では、国内のネットワークが弱い。日系社会の大きいアルゼンチン、パラグアイ、ペルー、ボリビアは、毎年ブラジルで行われている4か国代表者会議などを通して、近隣諸国とも連携を保っている。2015年と2016年に行われた南米スペイン語圏日本語教育会議により、広域をカバーするネットワークができていますが、国内のネットワーク自体が弱い国においては、国内ネットワーク構築強化が先決であろう。
- ▶ 南米スペイン語圏の日本語学習者の全体的な特徴として、(1)その他の教育機関で学ぶ学習者が多い、(2)全体的に中等教育段階までの学習者(年少者)が多いという2点が挙げられる。また、日系子弟への日本語教育を始まりとする、アルゼンチン、ペルー、パラグアイ、ボリビアには初中等教育機関(公教育)で日本語が教えられている。その他の5か国においては、その他の教育機関または高等教育機関でしか日本語が教えられていない。
- ▶ 日本語学習の目的は世界的傾向と同様、全体的に「歴史・文学等への関心」、「マンガ・アニメ・J-POP等が好き」、「日本語そのものへの興味」が高い割合を示している。計画移住が行われたアルゼンチン、パラグアイ、ペルー、ボリビアでは、その他の国と比べると、「母語または継承語」の割合が高い。特に、パラグアイとボリビアの割合が高い。
- ▶ 日本語教育実施状況の結果から、際立って課題として捉えられている項目はあまりないが、全体的に、日本語教材の数が十分でないという回答が多いようである。物価水準の差、送料・関税、通関手続きの煩雑さなど、教材の入手には多数の問題があるためであろう。また、積極的に授業に取り組む学習者の割合について見ると、その他の国に比べ、ボリビアとパラグアイの割合が低い。年少者の学習者が多く、日本語学習を始めるきっかけが親や親族の勧めなど、学習動機が自発的でないことが理由として考えられる。

国	日本語教育の特徴	国内ネットワーク	その他
アルゼンチン	日系日本語教育 外国語としての日本語教育 対象：年少者が多い	在亜日本語教育連合会 ※	計画移住あり
ウルグアイ	外国語としての日本語教育	在ウルグアイ日本人会 ※	
エクアドル	外国語としての日本語教育	エクアドルJLPT日本語教師会	
コロンビア	外国語としての日本語教育	コロンビア全国日本語教師会・ 日本語教育研究会 ※	計画移住あり (限定的)
チリ	外国語としての日本語教育		
パラグアイ	継承日本語教育 日系日本語教育 対象：年少者が多い	全パラグアイ日系人教育推進 委員会 ※ 日本語教師の会	計画移住あり
ベネズエラ	外国語としての日本語教育	ベネズエラ日本語教師会	
ペルー	外国語としての日本語教育 帰国者への日本語教育 対象：年少者が多い	ペルー日系人協会 ※ ペルー日本語教師会	計画移住あり
ボリビア	継承日本語教育 日系日本語教育 対象：年少者が多い	ボリビア日本語教育研究委員会	計画移住あり

※ ※ JFにほんごネットワーク²⁴(以下、さくらネットワーク)

²⁴ JFと世界各地の日本語教育機関をつなぐネットワーク。www.jpff.go.jp/j/project/japanese/education/network/